

編集後記——本号では、今まさに起きつつある「文化」の動きを、「開発」という視点から考えてみたいと思った。この十年あまり、確かに、新しい大きな動きが起きている感じがするのには、目の前にひろげられた民族文化や伝統民俗といわれるものには、いろいろなものがあるが、ゴチャ混ぜになった、らしきものもないものが少なくなかったからだ。◇少数民族地区では、民族の伝統文化を保護するという名目で、民族それぞれが独自のシンボルと固有の祝日をもつよう奨励されている。エスニックシンボルは、一九九〇年代の末頃から、エスニックツーリズムのブームにおくれて参加した民族地域で目立つようになった。例えば雲南省のラフ族は、県政府が二世紀に入ってから「葫蘆」（ヒョウタン）をシンボルに決めた。以来、瀾滄拉祜族自治県の県城には、街じゅうにヒョウタンが溢れるようになった。正確には、ヒョウタン型の大小の石製の置き物が公園やレストランの入口、一般の建物の屋上に飾られ、家屋の壁にはヒョウタン模様も描かれている。同様に雲南国境の街、瑞麗には「孔雀」（クジャク）型の飾りが建物の屋上に一斉に並んでいる。クジャクはタイ族のシンボルである。◇二〇〇八年に大地震に遭った四川のチャン族地区でも、神が宿るという白石がチャン族のシンボルと決められ、再建された家屋や学校・ホテルなどの屋上に飾られている。全国で唯一のチャン族自治県である北川羌族自治県では、災害復興支援は、チャン族の村も漢族の村も同様に行われ、チャン族のシンボルである白石は、県の人口の四割を占める漢族の家屋にも飾られている。白石はエスニックツーリズムの重要な観光資源でもあるからだ。◇民族地区では、少数民族だけではなく漢族を含むすべての民族が平等に扱われ、平等に恩恵を受けるという「区域自治」は、北川県の条例にしっかりと記され、実施されている。

（松岡正子）

投稿原稿募集 新しい発想から現代中国をめぐる諸問題に切り込む、気鋭の論者を広く募集します。現代中国に関するテーマであればジャンルは問いません。むしろ、既存の学問のジャンルを打ち破るような斬新な発想を期待します。①未発表のものに限る ②論説、研究ノート、報告・ルポ、資料等=50枚程度、書評=20枚程度、エッセイ=10枚程度（400字詰原稿用紙換算）③ワープロ等で作成したハードコピー原稿2部およびデジタルデータを提出。〈原稿送付先〉愛知大学現代中国学会  
投稿規程の詳細は現代中国学会までお問い合わせ下さい。採否は編集委員会の検討を経て決定し、採用にあたっては規定により薄謝を進呈します。なお、応募された原稿は採否にかかわらず返却いたしません。

#### 中国21編集委員会

〔編集長〕黄英哲 今井理之 河辺一郎 薛鳴 松岡正子 吉川 剛

愛知大学現代中国学部 <http://www.aichi-u.ac.jp/college/chi.html>

## 中国21 Vol.34

### 特集 国家・開発・民族

2011年3月10日発行

ISBN 978-4-497-21101-9 C3036

編 集	愛知大学現代中国学会 愛知県みよし市黒笹町清水370 〒470-0296 Tel. 0561-36-1314 Fax. 0561-36-5526
発行人	砂山幸雄
発売元	株式会社 東方書店 東京都千代田区神田神保町1-3 Tel. 03-3294-1001
制作印刷	株式会社 あるむ 名古屋市中区千代田3-1-12 Tel. 052-332-0861